

「第2次嬉野市総合計画(案)」について、市民の皆様からご意見を募集したところ、2件(2名)のご意見をいただきました。いただいたご意見及びご意見に対する市の対応について、公表いたします。

- 1. 意見募集期間 平成30年4月10日(火)から5月7日(月)
- 2. 公表資料 第2次嬉野市総合計画(案)
- 3. 周知方法 市ホームページ、塩田庁舎、嬉野庁舎、吉田出張所
- 4. 意見件数 2件(2名)
- 5. ご意見の内容及び対応 下記のとおり

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
1	<p>第2次嬉野市総合計画(案)に記載されているように、平成21年からある子育て支援センターは平日のみの利用で、日曜・祝日の利用がありません。</p> <p>私は仕事が医療関係に従事する為、休日も出勤することや、実家は農業に従事している為、農繁期は多忙な為、素案のように支援センターが休日に開館していると非常に助かります。</p> <p>また、支援センターの親子の行事など周辺の市は充実しており、嬉野市には行かずにそちらに行くことが多く感じます。</p> <p>内容の充実見直しも計画案にあるように、して頂ければと思います。</p> <p>※現在は、周辺の子育て世代はよく武雄市や鹿島市、佐賀市へ遊びに連れて行く姿を良く見ます。</p>	<p>基本計画の素案には、「保護者のニーズに合わせた利便性の向上が求められます。」と記載しております。休日に開館するという文言の記載はありませんが、平成30年度中に土曜日か日曜日のいずれかを開館できるように調整・検討中です。また、内容の充実見直しも「利便性の向上」の中に含まれています。</p>
2	<p>福岡市に住んでいた頃は、シルバー人材センターの方々が積極的に仕事される姿を見ますので、嬉野市でも広報をして頂ければ、更に仕事の場が増えるのではないのでしょうか。</p> <p>※回覧板に、シルバー人材センターの仕事広告を載せる、地域の行事に飲食の店舗として参加するなど。</p>	<p>具体的な活動支援の内容については、今後、シルバー人材センター事務局の意向も聞きながら、会員数の増加を図り、高齢者の社会参加と生きがいづくりの促進につながるよう協力を行っていきたいと考えています。</p>
3	<p>実家が農業従事の為、市内の緑化運動もいいですが、荒地(田園、茶畑)の整備や有効活用など考えて頂きたいです。</p> <p>現在、サイクリングやオルレで自然を楽しむ観光客も増えてきましたが、山地では荒地に害獣が増え、昼間でも道路脇の荒地に害獣が居る姿を稀に見る為、何も知らない観光客にもしもの事がないか等、不安もあります。また、観光しに来たのに、荒地が多いと外観も悪いと思います。</p>	<p>計画案の中に「耕作放棄地の拡大防止と農地の維持保全を図ります」と掲げていますように、農のある風景の保全と、観光資源としての自然・景観・環境の保全にも取り組んでいきます。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
4	<p>1. 全体的なこと 政府の長年にわたる経済・雇用政策の失敗が超高齢・少子化社会を到来させました。様々な推計から人口減少が続くのは数十年スパンでは避けられない事実です。(それでも佐賀県は他県にくらべてマイルド)日本全体が縮んでいくというかつて経験したことがない現実を見据えた嬉野市のまちづくりを語るべきだと思います。</p> <p>計画(案)に掲げられた指標はすべて従来型の右肩上がりとなっているがこれはありえません。マイナス10をマイナス8に留めることだって立派な計画です。現在からのダウンサイジングを悪いことか意気消沈するかのようにとらえる発想から脱却すべきだと思います。</p> <p>だから、「観光・企業誘致・特産品開発」というどこの自治体も言っている「まちづくり御三家」にもとづいて将来をバラ色に語るのではなく、これから先、「2025年問題」をはじめ、市民にとってどのようなこと(不都合)が起きるのか、それに市民の生活の質を担保しながらどのように対処しようとしているかをきちんと知らせる(インフォームド)ことが市の「説明責任」ではないでしょうか。</p>	<p>超高齢・少子化社会の進行が経済へ非常に大きな影響を与えている中で、嬉野市総合戦略に掲げていますように、嬉野市におきましては、人口減少幅をできるだけ小さくしつつ、ある程度の人口減少は避けられないことを前提にまちづくりを進めていくこととしており、第2次嬉野市総合計画も総合戦略と同様の基本的な考え方で策定をしています。</p> <p>指標については、全て右肩上がりではなく、減少が予想される項目は努力目標として現状を維持していくという目標値を設定しています。他の項目についても計画を実現していくことにより現状から更に伸ばしていける余地があることから目標を上方に設定しています。</p> <p>今回の総合計画には、市民の皆様、地域・団体・企業の役割と行政の役割を掲げ、支え合う地域社会を実現することにより、すべての人が安心して暮らし続けたいけるようなまちづくりを進めていくことにしています。</p> <p>2025年問題をはじめとする多くの課題に対しては、あらゆる機会を通して情報提供を行いながら、問題解決のために計画の具現化を図っていくことにしています。</p>
5	<p>新幹線駅周辺まちづくり その意味でいまだに「それ行けどんどん」型の発想が新幹線です。</p> <p>新幹線に過度の期待は出来ないし、縮んでいく日本でかえって住民の暮らしに重荷になると思います。</p> <p>次の記事は参考になります。</p> <p>「開業2年『北海道新幹線』特需消えて正念場へ 財務省は25日、財政制度等審議会(財務相の諮問機関)の分科会で、2017年度の北海道新幹線(新青森―新函館北斗)の営業損益が103億円の赤字になるとの見通しを明らかにした。18年度も102億円の赤字を見込む。赤字が16年度の2倍近くに拡大したことに対し同省は「JR北海道の経営を一層悪化させる」とし、今後の地域交通網の維持に影響を及ぼす恐れがあると指摘している」(「東洋経済オンライン」2018/5/4付)</p> <p>現状の社会インフラの維持・整備すら、財源難で困難になるろうというのにフル規格新幹線まで通して、後世に多大な負担を残すというのは納得できません。新幹線が開通した鹿児島も人口減が続いています。もっと重要な問題は、鹿児島本線の特急本数の大幅減で、暮らしに直結しています。</p> <p>右肩上がり伸びているのは高齢者人口と国・地方自治体の借金だけです。もうこのあたりで、成長神話と決別しませんか。</p>	<p>九州新幹線西九州ルートについては、「全国新幹線鉄道整備法」に基づく昭和48年の「整備計画」により整備が行われているものであり、いわゆる「国策」であると捉えています。</p> <p>同ルートは、わが国本土の西端に至る国土軸の骨格をなし、西九州地域をはじめとした九州の一体的飛躍に大きく貢献する重要な交通軸であると認識しています。</p> <p>これまで鉄道が無かった本市にとっても決して新幹線が通ることによる過度な期待はしておらず、むしろ人口流出も危惧されます。だからこそ、新幹線開業に合わせ嬉野市民一体となった魅力あるまちづくりが必要であり、そのためにも地域資源を市民一人一人が再認識し嬉野市の魅力を発信していくことが大切です。また、観光ルートの広域化による交流人口の増加を目指し、新幹線効果を県内、県外へと広く波及させる施策を展開していく必要があると考えています。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
6	<p>地域福祉・生活福祉 「2025年問題」を迎えるにあたって、厚労省は大幅なベッド削減を行い、高齢者を地域で見(看)守り、支えるとしています。 一方、年金財政のひっ迫から70歳年金受給開始を具体的に検討しています。年金額は現在の受給者も減っています。生きがいや人生観とは別に定年後も働かざるを得なくなるのです。現状でも65歳までの再雇用制度の義務付け以来、シルバー人材センターや老人クラブなどへの加入者がなかつたり、極端に減つたりしています。 これらは、地域で高齢者独居世帯や認知症を支える主力となる年齢層の不在を意味します。担い手をどのように作り出す計画ですか。</p>	<p>高齢独居世帯や認知症の方が増えること、また、それを支える方がいないことは、高齢者福祉にとって重要な課題です。その課題に取り組むのが「生活支援体制整備事業」です。この事業の主役は、地域住民であり、それを支えていくのが、生活支援コーディネーターであり、協議体です。今後、地域でどの様な形で高齢者を支えていくのかを考えていく必要があります。</p>
7	<p>私は民生児童委員をしています。いろんな分野において地域で支える側にあげられている民生児童委員委員はなかなか後継者を作ることに苦労しています。委員をやっている方も日常的なストレス状態にあります。超高齢社会における民生児童委員についてどのように援助する計画をお持ちですか。</p>	<p>行政として、民生児童委員の負担軽減や、将来のなり手確保等の支援は重要課題であると認識しています。超高齢社会において、民生児童委員だけに負担をかけることがないよう地域ぐるみの福祉活動を推進する計画としています。</p>
8	<p>国民年金のみの受給者は、ほとんどの人が実際には生活保護以下の水準で暮らしています。これに医療費などがかかります。しかし、生活保護への差別意識(烙印、スティグマ)が強く、また、近年誤った自己責任論の影響で保護を受けたいとの声あげられないのが現実です。これらの人への援助をどのように考えていますか。 「捕捉率」(生活保護以下の水準で生活している世帯のうち、実際に生活保護を受給している世帯の割合)の調査を数年スパンで定期に実施すべきと思いますが、計画がありますか。</p>	<p>今回、P42に「生活困窮者自立支援の充実を図ります。」という施策展開の項目を盛り込ませていただいております。また同じページには行政の役割として「生活に困っている全ての人が支援を受け安心して生活できるよう地域福祉ネットワークを強化します。」と記載しておりますのでご理解いただければと思います。「捕捉率」については、より具体的な施策になるため総合計画には記載せず、下位計画で検討したいと思っております。</p>
9	<p>ごみ・環境保全 この総合計画はタイトルを「うれしの やさしさプラン」としています。 日常、やさしくないと思っているのがゴミ出し分別の細かさです。9種類にもなる分別は大きな負担です。簡素化を検討してください。</p>	<p>ごみ分別は、分別収集計画に基づき行っています。ごみ分別の区分について記載するのは総合計画になじまず、また本市では3Rの推進を目指しているため、これ以上の簡素化は計画推進の妨げになるため今のところ検討はしていません。 ただし、平成30年4月からは燃やせないごみの分別をなくしたため、いくぶん分別の簡素化が行えたものと考えています。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
10	<p>また、ゴミ袋はプライバシーの塊です。これに、地区名・氏名を記入させるのはプライバシー権の侵害に相当すると思いますが、いかがお考えですか。一人暮らしの女性など、電話帳への不掲載が増えています。地区名・氏名を書かない、もしくは他の方法での運用を検討してください。</p>	<p>ごみ袋への住所(地区名)・氏名の記入そのものについては、プライバシーの侵害に当たるとは考えておらず、むしろ記名しないことで、ルールに反したごみを出し主に返すために袋を開けて中身を点検する自治体が増えており、これにはプライバシーの侵害の疑いありとの法解釈もあります。</p> <p>本市においては、市民に適正な分別・排出をお願いし、ごみの減量化・再資源化を促進し、あるいはごみステーション管理の効率化の観点から、間違った分別をされた方に指導をさせていただくため、また誤って廃棄してしまった貴重品を回収できる可能性もあるため、ごみ袋の記入をお願いしているため、現状では記名をなくす方向での検討は行っていません。</p> <p>したがって、個人情報特定されるような物品を見える状態で捨てないよう、またどうしてもステーションに出せないのであれば直接嬉野市ごみ中継基地に持ち込んでいただくなどの方法の啓発を行っていきたくと考えています。</p>
11	<p>生涯学習・青少年育成 図書館の充実とありますが、嬉野市の2つの図書館ははっきり言って貧弱です。私はお隣の鹿島市民図書館をよく利用させてもらっています。</p> <p>まちづくり(くにづくり)、ひとづくりの基本は教育・福祉にあると思いますが、蔵書量、施設・体制とも鹿島市、伊万里市などに比べると格段に劣ります。</p> <p>平成の大合併以降も2館体制できています。</p> <p>わたしは、嬉野市に「教育(学問)と福祉のまち」になってほしいと思っています。新幹線関連より教育・文化分野に予算を使ってほしいと思っていますが、図書館の将来像をどのように考えていますか。</p>	<p>ご意見・ご指摘のように、更に図書館の充実を図ることが重要であると認識しています。昨年、「嬉野市文化の香り高い読書のまち活動推進条例」を制定していますように本に親しむ環境づくりを進め、読書によるまちづくりを目指していくことにしています。</p>
12	<p>農業 イノシシ害は深刻です。「猟友会を中心として対策を継続していく」とありますが、消極的です。</p> <p>イノシシ害は災害にも直結します。</p> <p>嬉野市として「イノシシ研究所」(仮称)を設立して(他市町、企業、研究機関と共同)、忌避する薬剤、機器を開発するなど、広く市民が実行できる駆逐方法を開発・普及して頂きたい。これをビジネスにしてもよいではありませんか。</p>	<p>ご意見については、基本計画の◇有害鳥獣の捕獲や防止柵の設置に対する支援の中と捉え、実施計画で反映できるか検討します。</p>

番号	ご意見の内容	ご意見に対する対応
13	<p>消防・防災</p> <p>多くの被害者をだした平成29年の北部九州豪雨は従来型の水害対策の限界を示しました。千ミリ近い雨が降ると、溜池の決壊や溢水が発生し、被害を大きくします。</p> <p>現在、避難所に指定されているなかにはこの溜池の下流や河川近くに位置するところがあります。これは早急に見直すべきではありませんか。</p>	<p>近年の災害は激甚化し、場所を選ばず被災するおそれがあります。また、現在、嬉野市に所在する指定避難所も浸水想定区域内に立地するものなどが存在します。土砂災害であれば、水平避難(現在の場所から、遠くに避難する)が有効な手段となりますが、浸水災害であれば、状況によっては、水平避難よりも垂直避難(同じ場所より高い場所に避難する)が有効である場合があります。</p> <p>指定避難所の一部を除けば、垂直避難が可能な施設であり、仮に現在ある指定避難所と異なる避難所を選定するとなると、避難者を受け入れる容量を有する施設が存在しません。</p>
14	<p>道路・交通</p> <p>適切な分野がないのでここに書きます。これは2年前、市長と語る会で述べました。</p> <p>嬉野市は鹿島市、武雄市に比べて、行政区を示す道路標識(表示)がとても少ない状況にあります。とくに塩田町において顕著です。</p> <p>各行政区に標識がある方が、自分が住むところに愛着を感じるし、郷土意識も高まります。また、車などで通る方にもここはどこかを知らせることができます。</p> <p>この計画はどうなっているのでしょうか。</p>	<p>今日では、ITいわゆる情報技術の急激な進歩により、携帯電話、カーナビゲーション等のIT機器により位置情報を察知することができる便利な社会となっております。仮に市内全域に行政区の標識(表示)を設置するとすると、設置数は88(旧塩田町:54、旧嬉野町:34)となりますが、議会の一般質問においても、景観の関連上、現時点では地区名の標識の設置は控えさせていたきたい旨の答弁を行っているところです。</p>